第１章　調査の経緯

第１節　調査に至る経過

高松平野のほぼ中央を東西に横切る形で国道11号バイパス「高松東道路」の建設が決定されたことにより，当該予定地内に所在する埋蔵文化財の取り扱いについて香川県教育委員会と建設省四国地方建設局香川工事事務所との間で協議がなされ，記録保存で対応することが決定した。

これを受けた香川県教育委員会では，当該用地内に所在する遺跡の範囲の確定を目的として，断続的ではあるが昭和61年12月から平成元年１月にかけて高松市上天神町から前田東町を対象として，３次にわたる試掘調査を実施した[1]。

この試掘調査の結果，西から順に上天神遺跡，太田下・須川遺跡，林・坊城遺跡，六条・上所遺跡，東山崎・水田遺跡，前田東・中村遺跡の計６遺跡の範囲が確定された。

本調査は昭和62年11月から，香川県教育委員会が上天神遺跡の一部に着手したことに始まり，昭和63年度からは香川県教育委員会を調査主体として，財団法人香川県埋蔵文化財調査センターを調査担当として実施している。

香川県教育委員会と財団法人香川県埋蔵文化財調査センターは，昭和63年４月１日付けで「埋蔵文化財調査委託契約書」を締結し，前年度までに調査対象面積が確定していた上天神遺跡，林・坊城遺跡，六条・上所遺跡について発掘調査を実施することとなった。さらに昭和63年６月30日付けで「埋蔵文化財調査委託契約書の一部を変更する契約書」を締結し，東山崎・水田遺跡，前田東・中村遺跡の２遺跡の発掘調査が財団法人香川県埋蔵文化財調査センターに追加委託されることとなった。

上記の経緯により，昭和63年４月１日から昭和63年11月30日の期間で，高松市林町に所在する林・坊城遺跡の本調査を実施した。

註１　『国道バイパス及び四国横断自動車道建設予定地内埋蔵文化財詳細分布・試掘調査概報』
　　香川県教育委員会（1987）
　『一般国道11号線高松東バイパス建設予定地内埋蔵文化財試掘調査報告』
　　香川県教育委員会（1988）
　『一般国道11号高松東バイパス建設及び県営圃場整備に伴う埋蔵文化財試掘調査報告Ⅱ』
　　香川県教育委員会（1989）

第２節　調査の経過

１．発掘調査の経過

昭和63年度期間中の調査体制は，以下の組織表のとおりである。

香川県教育委員会事務局文化行政課

総括	課長	廣瀬　和孝
	課長補佐	高木　　尚
	副主幹	野網朝二郎（6.1～）
総務	係長	宮谷　昌之（～5.31）
	係長	宮内　憲生（6.1～）
	主事	横田　秀幸（6.1～）
	主事	水本久美子
埋蔵文化財係長		大山　真充
	主任技師	安藤　清和
	技師	國木　健司

財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

総括	所長	田丸　秀明
	次長	小原　克己
総務	主査（事務）	加藤　正司
	主査（土木）	山地　　修（6.1 ～）
	主任主事	近藤　紀文
	参事	前田　輝男
調査	係長	廣瀬　常雄
	文化財専門員	廣瀬　直樹
	主任技師	牧野　啓造
	主任技師	植松　邦浩
	主任技師	鍋井　一視
	技師	渡邊　茂智
	技師	中野　昇一
	技師	磯崎　　寛
	技師	嶋村　友子
	技師	北山健一郎
	技師	森　　格也
	技師	稲田美穂子
	技師	古野　徳久
	技師	蔵本　晋司
	技師	宮崎　哲治
	調査技術員	秋山　成人
	調査技術員	山本　　健
	調査技術員	藤川　京子
	調査技術員	矢野　　徹
	調査技術員	日下　弥生
	調査技術員	吉原　明美
	調査技術員	西中　一仲
	調査補助員	田村　久雄

調査の方法であるが，調査対象地は東西に細長く延びており，複数の市道・私道と用水路が調査対象地を横断していることを考慮して，それらの道路や用水路を境としてA～Gの調査区を設定した。さらに調査区によっては農業用の用水路等が存在しており，現地形を考慮しつつ2～3区の少区画を設定して調査を実施している。（第3図）

調査の基準となる杭は，「高松東道路」建設予定地のセンターライン上に20m間隔で打設し，基準点測量を行なった。さらに航空測量の際に杭の基準点測量も行ない，国土座標との対応をはかっている。

発掘作業は，昭和63年4月1日から11月30日まで実施した。発掘作業の経過については，以下に調査日誌抄を掲げる。

調査日誌（抄）

（昭和63年4月）

今年度は国道事業の各遺跡の調査開始時期が異なるため，すべての調査員・作業員を使って林・坊城遺跡の調査が始められた。

1日　調査資材を国道事業調査事務所に搬入する。調査は，C1地区の表土剝ぎから開始する。

18日　C3地区の表土剝ぎを開始する。

19日　C2地区の表土剝ぎを開始する。

28日　C3地区遺構面精査。溝状遺構を検出する。基本土層は，Ⅰ層暗灰色粘質土（耕作土）・Ⅱ層黄褐色粘質土（床土）・Ⅲ層明黄色粘土（地山）であり，Ⅲ層の上面が遺構面となっている。

（5月）

専門職員が調査に加わり，一気に調査区が展開を見せた。好天にも恵まれ調査は進んだ。

6日　A地区の表土剝ぎを開始する。

9日　B地区の表土剝ぎを開始する。

11日　63年度採用の専門職員5人が初任者研修を終えて調査に参加する。

16日　B地区で自然河川を検出する。

18日　D1地区の表土剝ぎを開始する。

23日　D2地区の表土剝ぎを開始する。

25日　A地区の写真撮影・実測図面作成を行ないA地区の調査を終了する。D3地区の表土剝ぎを開始し，自然河川を検出する。

30日　E1地区の表土剝ぎを開始する。D3地区から続く自然河川を検出する。

（6月）

前半は好天が続いたが後半は一転して雨が多くなり，調査区内の排水作業に追われて作業がはかどらない。

1日　D3地区で精査を行ない，自然河川の西肩を確認する。流路部分の掘り下げにともなって弥生前期土器・石器が出土する。

7日　D1地区で溝状遺構等を検出する。

13日　C地区の写真撮影・実測作業が進む。

14日　D2地区のSX03の掘り下げを開始する。弥生後期土器が多数出土する。

23日　C地区の調査を終了し，埋め戻しを開始する。

29日　Ｄ２地区のＳＸ03の土器出土状況の実測図面を作成。

30日　Ｄ１地区の写真撮影・実測図面作成も終わり，Ｄ１地区の調査を終了する。

（７月）

上旬は雨が多く，さらに国道事業の３遺跡の調査の開始により調査員・作業員が減り作業が停滞気味となる。中旬以降は天気には恵まれたが蒸し暑さに悩まされながらの調査が続いた。

１日　作業員を増員する。Ｂ地区の西半の調査を終了し，引き続いて東半の調査を開始する。Ｃ４地区の表土剝ぎを開始する。

５日　梅雨明け宣言が出るが，これ以後蒸し暑さが付きまとう。Ｅ１地区の自然河川を掘り下げる。弥生土器が出土する。

８日　毎日新聞・四国新聞の取材を受ける。Ｄ３地区の自然河川の黒色粘土（下層）を掘り始める。植物遺存体とともに縄文晩期土器が出土する。

13日　突発的な豪雨によって用水路からあふれた雨水が調査区に流れこみ，Ｄ３・Ｅ１地区は完全に水没した。排水作業が追い付かず現状の復旧に10日程を費やした。

22日　Ｂ地区東半の調査区を拡張して遺構検出を始める。弥生前期土器を含んだ溝状遺構を検出する。Ｄ３地区の自然河川から縄文時代晩期の諸手鍬が出土した。

23日　Ｇ地区の表土剝ぎを開始する。

27日　Ｃ４地区の調査を終了し埋め戻す。

28日　教育長が現場視察のため来訪する。Ｄ３地区の自然河川で柄付半截木製品が出土する。

Ｅ１地区の自然河川の下層から弥生前期土器が出土する。

（８月）

縄文時代晩期の木製農耕具の出土によってマスコミの取材が殺到し，その対応に追われながらも調査は順調に進んだ。

１日　Ｂ地区東半の実測作業も終わり，Ｂ地区の調査を終了する。Ｄ３地区の自然河川では多数の自然木とともに小型鋤状木製品などが続いて出土した。

４日　Ｄ３地区の木製品の出土状況の実測をしながら，木製品の取り上げを開始する。

５日　Ｄ３地区でえぶり未製品が出土する。奈良県立橿原考古学研究所の石野博信氏が来訪。Ｆ地区の表土剝ぎを開始する。

９日　高松市教育委員会の藤井雄三氏来訪。

10日　NHK等のテレビ，朝日・毎日・四国新聞の取材を受ける。Ｅ１地区を拡張する。

18日　九州大学・早稲田大学の学生来訪。

26日　岡山県古代吉備埋蔵文化財調査センターの平井勝氏他来訪。Ｄ３地区を拡張する。

27日　茨木市教育委員会から４名来訪。Ｅ１地区の調査を終了する。

29日　Ｅ２地区の表土剝ぎを開始する。Ｆ地区の遺構検出が進む。

31日　四国新聞の取材を受ける。

（９月）

残暑は厳しいが取材攻勢も一段落し，全体に落ち着いて調査が進んだ。西半部の調査は終わり，中心は東半部へ移った。新たに前田東・中村遺跡の調査が開始し調査員が減った。

2日　G地区の遺構検出を開始する。

5日　調査事務所の移転が完了する。

7日　D３地区の拡張区で小型鋤状木製品が出土した。

12日　F地区の実測図面作成が終了し，下層確認トレンチを掘り始める。

23日　D３地区を北方へも拡張する。

28日　G地区の遺構の掘り下げが進む。遺物はきわめて少ない。

30日　F２・３，G１地区の埋め戻しを開始する。

（10月）

東山崎・水田遺跡の調査が始まり，さらに調査員・作業員が減ったが，東半部の調査も峠を越したため特に影響はなく調査は進んだ。

3日　D２地区の南拡張区で遺構検出を開始しSX03の南端を検出した。C５地区の表土剝ぎを開始する。G３地区の調査を終了した。

4日　弘福寺領田図等遺跡調査検討会の工楽善通氏来訪。F３地区の調査を終了する。

5日　奈良国立文化財研究所の工楽善通氏・上原真人氏来訪。

11日　C５地区・F１地区の調査を終了する。

17日　筑波大学の山田昌久氏来訪。D２地区に下層確認トレンチを掘る。D３地区の拡張区の調査が進む。

19日　D３地区の平面実測が終了する。

27日　奈良国立文化財研究所の町田章氏来訪。

（11月）

本遺跡の調査も残すところD２・３地区のみとなり，「終わり善ければすべてよし」の格言を思い起しつつ調査に励む。

1日　D２地区のSX03の下層確認を開始する。

2日　D３地区の仮設道の下の掘り下げを開始する。

4日　口酒井遺跡調査会の浅岡俊夫氏・大阪法経大学の橋本久氏来訪。

7日　立命館大学の家根祥多氏来訪。

9日　D３地区の北拡張区の最下層で異形土器が出土する。

17日　四国新聞の取材を受ける。

18日　実測図面の作成を終了する。

19日　ヘリコプターを使って空中写真撮影を行なう。

28日　D３地区の自然河川の土層断面の剝ぎ取りを行なう。同時にプラントオパール分析用の資料を採取する。

29日　D２・D３地区の埋め戻しを行ない，林・坊城遺跡の調査を終了する。

——発掘調査に従事した方々——

井口　義行	石浜　喜一	植田　三良	内海　廣文
大澤　政道	大森　正智	岡　　章	乙武　孝男
柏原　　巧	柏原　義明	加藤　直雄	亀井　正博
久保　重男	久保　竹義	見藤　信雄	河野　敏文
小松　定一	佐々木英二	篠原　密夫	杉山　　悟
十河　英徳	田窪　　勝	谷　　繁男	谷友　　栄
筒井　　修	中井　秋義	長柄　　稔	長尾　貞義
中山　祐弘	平田　　弘	藤井　　清	細谷　祐義
本田　昌男	松崎　　稔	松本　照雄	宮井　　肇
三宅　健三	宮脇　満利	三好　俊二	森　　敏雄
森安　　力	山下　静男	山本登美男	山地　秋男
吉峰　　茂	柳萬　信夫	朝日　悦子	阿河　静子
飯尾　秀子	井口夫美子	井上　初子	出石真理子
井上ユキノ	上野キミ子	太巻　房子	内海　花子
大川　玲子	大熊　智子	大西　君子	大西ミネ子
大山　敏子	岡田　春野	乙武　文江	小原ヒサエ
亀井イシノ	鎌野キクエ	川西　鈴子	河原みち子
川東ミツ子	楠原ひとみ	国方テル子	久保キミ子
黒川　陽子	鍬島アキ子	鍬島美智子	佐々木由美子
佐藤　安子	白石　和美	四宮トヨコ	十河　貞子
十河　信子	十川　芳子	高橋三千代	高橋　光子
竹林　弘子	竹下　雪江	竹田キヨ子	田中　キヨ
谷川　幸子	佃　　和子	辻　　洋子	津村登志子
時末　宣子	中川　幸子	中西　弥生	中村サダ子
中村　芳子	鯰越　静代	西谷　政江	二宮　照子
畑田　静江	華岡　利子	平尾　文子	平田　圭子
平田ツヤ子	平野理恵子	福家　タミ	別枝由美子
本田　貞子	米谷　昭子	松上　初子	松本　和子
湊　トシミ	溝渕久美子	三好ちづる	三好　モト
村井サダ子	元木佳庸子	森口すえの	森田　朱實
森本シゲ子	矢野　嵯峨	山田　君子	吉川　久枝
吉田かず代	吉田　絹代	吉田千代子	吉本みどり
吉峰美恵子	脇　千代江		

大嶋和彦（京都教育大学学生）　　神保美智子（徳島文理大学学生）

2．整理作業の経過

平成３年度期間中の整理体制は，以下の組織表のとおりである。

香川県教育委員会事務局文化行政課

総括	課長	中村　仁
	主幹	菅原　良弘
	課長補佐	小原　克己（6.1～）
	副主幹	野網朝次郎（5.31～）
総務	係長	宮内　憲生
	主任主事	横田　秀幸（～5.31）
	主事	桜木　新士（6.1～）
	主事	石川恵三子
埋蔵文化財	係長	藤好　史郎
	主任技師	岩橋　孝
	主任技師	北山健一郎

財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

総括	所長	松本　豊胤
	次長	安藤　道雄
総務	係長（事務）	加藤　正司（～5.31）
	係長（事務）	土井　茂樹（6.1～）
	主任主事	黒田　晃郎
整理担当	係長	真鍋　昌宏
	技師	宮崎　哲治

平成４年度期間中の整理体制は，以下の組織表のとおりである。

香川県教育委員会事務局文化行政課

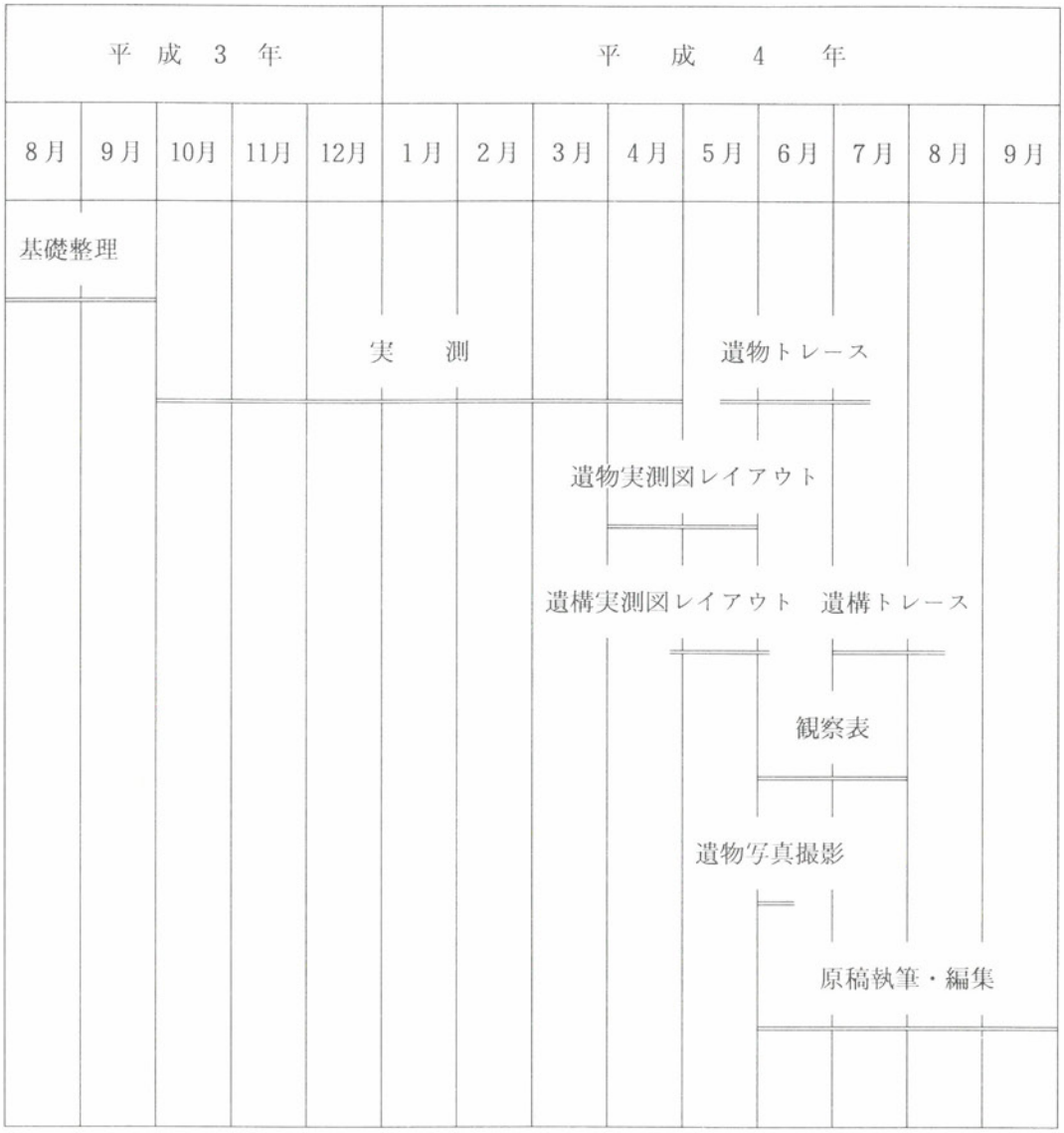
総括	課長	中村　仁
	主幹	菅原　良弘
	課長補佐	小原　克己
総務	係長	宮内　憲生（～5.31）
	係長	源田　和幸（6.1～）
	主事	桜木　新士
	主事	石川恵三子
埋蔵文化財	係長	藤好　史郎
	主任技師	國木　健司
	主任技師	北山健一郎

財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

総括	所長	松本　豊胤
	次長	市原　敏則
総務	係長（事務）	土井　茂樹
	主任主事	黒田　晃郎（～5.31）
	主任主事	大西　健司（6.1～）
整理担当	係長	廣瀬　常雄
	技師	宮崎　哲治

整理作業は平成３年８月１日から平成４年９月30日まで実施した。整理作業の経過については第１表にまとめて掲げる。

第1表　整理作業工程表



――整理作業に従事した方々――

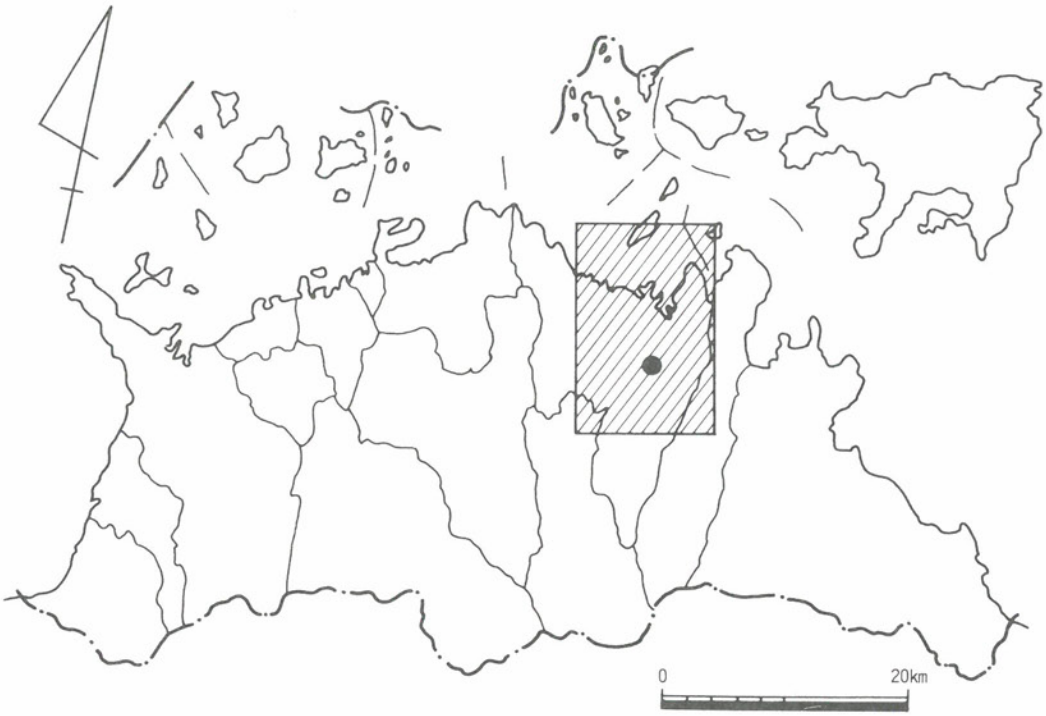
大沢多鶴子　大田　和子　藤堂　収子　若山　淳子
西山佳代子　村山　文子　石原まり子　小畑三千代

第2章　立地と環境

第1節　地理的環境

高松平野は，東を立石山・雲附山・五瀬山山地，南を由良山山地，西を五色台・堂山山地に取り囲まれた平野で，北は備讃瀬戸をはさんで岡山県と相対しており，東西約12km，南北約10kmの広がりを持っている。平野西部には本津川・香東川，平野東部には春日川・新川が流れているが香東川，春日川，新川のいずれもが近世に改修され，河口付近の流れを変えられている。高松平野の中央部の海寄りに独立丘陵である石清尾山山塊が存在しており，高松平野第一の河川である香東川は現在は石清尾山山塊の西側を流れているが，本来は東側を流れていたと考えられている。高松平野の南部は，由良山山地から連続する段丘状地形が発達し，その先端の緩扇状地形を経て氾濫平野・河口の三角州へと続いているため，南から北に向かって緩やかに傾斜している。凹凸の少ないなだらかな傾斜の続く地形をしているため，条里地割による方格地割を今に伝える水田などの地割りが広がっている。

林・坊城遺跡は高松平野のほぼ中央部に位置し，遺跡の周辺には方格地割が比較的良好な形で残っている。



第1図　林・坊城遺跡位置図

第２節　歴史的環境

本遺跡の立地する高松平野は，遺跡の多い地域として古くから知られてきた。周知の遺跡が分布しているのは，高松平野東部から南部にかけての平野と丘陵が接する部分の丘陵上と，高松平野北西に位置する石清尾山塊に集中しており，高松平野の中央部については遺跡の分布はほとんど知られていなかった。しかし，当センターや高松市教育委員会によって平野の中央部でも発掘調査が行なわれており，平野中央部にも多くの遺跡が存在することが確認されている。特に，国道11号線のバイパスである高松東道路建設に伴う発掘調査と，旧高松空港跡地の開発に伴う発掘調査は，高松平野中央部における初めての大規模な発掘調査である。高松東道路建設に伴う発掘調査は平野を東西に横断する大きなトレンチのような線的なもので，遺跡の立地のみならず高松平野の形成と変遷にまで迫るものであり，また，旧空港跡地の開発に伴う発掘調査は面的な調査で，遺跡の広がりなどに迫るものであるといえる。これらの発掘調査は，幾つもの新知見をもたらしているが，高松平野中央部の研究はまだまだ緒に就いたばかりといえよう。林・坊城遺跡で検出した遺構の時期を中心として，時代別に概観してみる。

旧石器時代・縄文時代

旧石器時代および縄文時代の遺跡は極端に少なく，旧石器時代の事例としては雨山南遺跡[1]で国府型ナイフ形石器が採集されており，平野中央部の大池遺跡で有舌尖頭器が採集されている。新しく見つかったところでは高松平野西部の中間・西井坪遺跡[2]で四国横断自動車道（高松～善通寺間）建設に伴う発掘調査で，ある程度まとまって旧石器が出土している。高松東道路関連の調査では東山崎・水田遺跡で有舌尖頭器が出土している。

縄文時代は前期の下司遺跡，後期の三谷三郎池遺跡，晩期末と考えられる光専寺山遺跡など，高松平野南部の山麓地帯の遺跡が知られていた。当センターが調査した前田東・中村遺跡で注口土器を含んだ後期の土器が自然河川から出土し，さらに晩期の土坑・柱穴から凸帯文土器がわずかに出土しているが，この遺跡も高松東部の山麓地帯に位置している。今回報告する林・坊城遺跡は遺構こそ見つかってないものの，自然河川から晩期末の土器がまとまって出土している。土器とともに木製農耕具が出土しており，近接地に集落の存在が予想される。高松市教育委員会が調査した居石遺跡でも自然河川から原下層式併行の土器が出土したという。ともに高松平野中央部に立地する遺跡であり，今後も平野中央部で晩期を中心とした遺跡の発見例が増加することが予想される。

弥生時代

弥生時代の遺跡であるが，前期・中期に属する遺跡は少なく，後期に属する遺跡が圧倒的に多い傾向を示している。

前期の遺跡は平野中央部に位置する天満・宮西遺跡や浴・長池Ⅱ遺跡，山麓部に位置する諏訪

神社遺跡，光専寺山遺跡などがあげられる。天満・宮西遺跡では環濠が検出され，浴・長池Ⅱ遺跡では前期と考えられる小区画水田が検出されている。諏訪神社遺跡でも環濠と考えられる溝状遺構が検出されている。また，当遺跡でも溝状遺構・土坑を検出している。

中期の遺跡はこれまでほとんど知られておらず，わずかに石清尾山山頂の摺鉢谷遺跡[3]，平野東部の低丘陵上の久米池南遺跡，平野南部山麓地帯の中山田遺跡などがあるにすぎなかった。近年の高松市教育委員会による調査で平野中央部に位置する凹原遺跡，浴・長池Ⅱ遺跡，井手東Ⅰ遺跡，当センターが調査した前田東・中村遺跡で，中期の遺構が検出されている。凹原遺跡では中期中頃の竪穴住居跡が1棟検出されており，石器製作の場に利用されていたことが判明している。浴・長池Ⅱ遺跡でも竪穴住居跡が検出されており，井手東Ⅰ遺跡では溝状遺構から櫛描文を中心とする土器群とともに，鍬・鋤といった農耕具，弓，琴などの木製品が出土している。前田東・中村遺跡では中期後半の方形周溝墓を1基検出している。中期の遺跡の動向については，今後の平野部での調査に期待されるところが大きい。

後期に入ると遺跡の数ははるかに増加する。山麓部に位置する遺跡としては大空遺跡，南谷遺跡，葛谷遺跡[4]，三谷三郎池遺跡，三谷通谷遺跡，円養寺遺跡[5]などがあげられるが，発掘調査が実施された遺跡は少なく，内容のわからない遺跡が多い。大空遺跡は一辺1m程の土坑から40点余りの完形土器が出土しており，北四国における弥生時代後期初頭の標識遺跡として著名な遺跡である[6]。南谷遺跡では後期土器とともに多量の製塩土器片が採集されている。三谷通谷遺跡と円養寺遺跡は弥生時代終末から古墳時代初頭にかけての墳墓が確認されている遺跡である。平野中央部でも，当センターと高松市教育委員会による発掘調査で後期の遺跡の存在が確認されてきている。上天神遺跡は竪穴住居跡を中心とする遺構群を検出しており拠点集落ひとつである可能性が高い遺跡である。太田下・須川遺跡でも竪穴住居跡を数棟検出しており，自然河川から鹿の線刻のある土器片が出土している。居石遺跡では自然河川の川岸から弥生時代終末の3面の小型仿製鏡が出土しており，水辺の祭祀との関連が想定されている。凹原遺跡では微高地上に14棟の竪穴住居跡が検出されている。前田東・中村遺跡では「周溝墓」と考えられる溝状遺構を検出しており，自然河川から多量の土器が出土している。当遺跡でも陸橋部を持った後期後半の円形周溝状遺構を1基検出している。空港跡地遺跡では竪穴住居跡をはじめとして，円形・方形や前方後方形などの周溝状遺構を検出している。

古墳時代

古墳時代では，積石塚で著名な石清尾山古墳群をはじめとする古墳が多く知られているのに対して，集落遺跡はほとんど知られていない。今後，平野中央部での調査が進むにつれて集落遺跡も検出されるものと思われる。

前期から中期にかけての古墳は平野の縁辺部の丘陵上に立地する。平野北西部の石清尾山山塊上には2基の双方中円墳（猫塚・鏡塚）・9基の前方後円墳（北大塚・石船塚・稲荷山姫塚・姫

塚・鶴尾神社４号墳・摺鉢谷９号墳など）の積石塚に10数基の円墳・方墳を加えた大古墳群である石清尾山古墳群が所在し，平野東部では前方後円墳である高松市茶臼山古墳が低丘陵の頂部に立地している。平野南部においては丘陵上に船岡山古墳や三谷石船古墳が築かれている。他にも円墳をはじめとする多数の古墳が築かれているが，いずれも丘陵上や山麓に立地している。このような傾向を示す中で，平野の中央部の海岸近くに１基のみで所在する，小規模な円墳の白山神社古墳は特異な存在といえよう。

後期になると横穴式石室を主体部にもつ小型の円墳が群集して出現してくる。先述した石清尾山古墳群のうち大半は横穴式石室墳で，山麓から山頂にかけての各所に見ることができる。これらの小規模な横穴式石室墳は南山浦古墳群・浄願寺山古墳群というようにいくつかの支群に分かれる。数では他の古墳群を圧倒する石清尾山古墳群ではあるが，小規模な横穴式石室をもつものが多く，巨大な石室を主体部とする古墳は見られない。平野の東縁部には山下古墳・久本古墳・小山古墳（消滅）といった巨大な横穴式石室をもつ古墳が集中している。これらの巨大な石室墳は古墳時代終末期に築かれたものであろう。また，滝本神社古墳は平面形態がＴ字形の石室を持っており注目される。この地域にも古墳群は存在しているが数基単位で古墳群を形成しており，大規模なものは見られない。平野南部にも大型の横穴式石室をもつ矢野面古墳をはじめとして，いくつかの古墳の存在が知られているが，数基単位の小さな古墳群が散在しているにすぎない。

集落遺跡はほとんど知られていないが，当センターが発掘調査した平野中央部の六条・上所遺跡では５世紀の竪穴住居跡から陶質土器ともに韓式土器が出土しており，集落がこの辺りに広がっている可能性を示している。また，前田東・中村遺跡では自然河川から古墳時代前期の土器とともに木樋・弓・斧柄・木錘などの多量の木製品が出土していることから，周囲に集落の存在が想定される。他にも高松市教育委員会が発掘調査した天満・宮西遺跡や凹原遺跡などでも集落遺構が検出されており，今後発掘調査が進むにつれて多くの集落遺跡が検出されることであろう。

古代

古代の遺跡では前田東・中村遺跡で大きな規模をもつ掘立柱建物群を検出しており，さらに帯金具・墨書土器・緑釉陶器などといった出土遺物から官衙的な役割を有していた可能性を指摘している。現在，当センターにおいて整理作業が進められており，今後の研究に期待は大きい。高松市教育委員会が発掘調査した松縄・下所遺跡では７世紀中頃～８世紀後半までの幹線道路状遺構を検出しているという。高松平野の条里制施行に何らかの形で関わっているものであろう。高松平野の土地利用については，天平７年（735）に描かれた「弘福寺領讃岐国山田郡田図」が残されており奈良時代の村落の状況をうかがうことができる。この田図に描かれた地域は当遺跡の西方一帯に比定されると考えられており，現在も高松市教育委員会によって発掘調査が進められている[7]。高松平野は現在でもほぼ全域に方格地割が認められる地域であり，今後の研究が待たれ

第２図　周辺の遺跡分布図

第２表　林・坊城遺跡周辺の遺跡一覧表①

番号	遺跡名	所在地	時代	主な遺構	主な遺物	備　考	参考文献
1	鷲ガ峰遺跡	高松市女木町	散布地		製塩土器		
2	女木丸山古墳	高松市女木町	古墳	円墳　直径15m　組合式箱式石棺	純金製箱式耳飾り・鉄刀・鉄鏃	1964年調査	10・18
3	高松城跡	高松市玉藻町	近世			1990年調査	13・27
4	下ノ山遺跡	高松市西宝町	弥生	（青銅器埋納地）	広形銅矛２口	1982・83年出土	11
5	摺鉢谷９号墳	高松市峰山町	古墳	前方後円墳　全長27m　列石		積石塚	5・16・23
6	北大塚古墳	高松市宮脇町	古墳	前方後円墳　全長40m　石積み	土師器細片	積石塚	5・16・23
7	鏡塚古墳	高松市峰山町	古墳	双方中円墳　全長70m　竪穴式石槨?		積石塚　盗掘	5・16・23
8	石船塚古墳	高松市峰山町	古墳	前方後円墳　全長57m　割竹式石棺	変形神獣鏡　円筒埴輪	積石塚　棺身に造り付けの石枕	5・16・23
9	猫塚古墳	高松市鶴市町	古墳	双方中円墳（双方中方墳）　全長96m	内行花文鏡・獣帯鏡・四獣鏡・三角縁神獣鏡・筒形銅器・銅鏃・石釧・土師器壺	積石塚　大盗掘	5・16・23
10	姫塚古墳	高松市峰山町	古墳	前方後円墳　全長43m		積石塚	5・16・23
11	鵜尾神社4号墳	高松市西春日町	古墳	前方後円墳　全長47m　竪穴式石槨	方格規矩鏡・土師器片	積石塚　1970・81年調査	9・10・23
12	稲荷山姫塚古墳	高松市宮脇町	古墳	前方後円墳　全長58m	土師器片	積石塚　盗掘	5・16・23
13	浄願寺山古墳群	高松市西春日町	古墳	小円墳		50基程度	10
14	南山浦古墳群	高松市西春日町	古墳	小円墳　横穴式石室	須恵器・土師器・鉄器・ガラス玉・金環	13基程度	10・12
15	ガメ塚古墳	高松市飯田町	古墳	前方後円墳		消滅	
16	長崎鼻古墳	高松市屋島東町	古墳	前方後円墳　全長33m　竪穴式石槨	刀剣・鏃・鈴（銅鏡?）		10・23
17	浦生遺跡	高松市屋島西町	古墳			製塩遺跡	
18	屋島城跡	高松市屋島西町	古代	石塁・水門跡		1980年調査	23・25
19	浜北古墳群	高松市屋島西町	古墳			1号墳は前方後円墳	
20	中筋北古墳	高松市屋島西町	古墳	円墳　組合式石棺			
21	屋島中央東古墳	高松市屋島西町	古墳	円墳　横穴式石室		1968年消滅	
22	屋島中央西古墳	高松市屋島西町	古墳	円墳　横穴式石室			
23	湯の谷古墳群	高松市屋島東町	古墳	円墳			
24	丸山遺跡	木田郡庵治町	弥生		中細形銅鉾１口		
25	大空遺跡	高松市高松町	弥生	土坑	弥生土器・製塩土器	1951年調査	10・17
26	スベリ山南遺跡	高松市高松町	弥生		弥生土器	1955年出土	
27	南谷古墳	高松市高松町	古墳	円墳	須恵器平瓶	消滅	
28	南谷遺跡	高松市高松町	弥生		弥生土器・製塩土器	1976・1987年出土	10・21
29	長尾古墳群	高松市高松町	古墳	円墳　横穴式石室			
30	小山古墳	高松市新田町	古墳	横穴式石室（複室構造）	須恵器長頸壺	1950年消滅	21
31	石塚古墳	高松市新田町	古墳	円墳　横穴式石室	円筒埴輪	消滅	
32	山下古墳	高松市新田町	古墳	横穴式石室		1987年調査	7・10・23
33	岡山小古墳群	高松市新田町	古墳	小円墳		15基程度	
34	岡山古墳群	高松市新田町	古墳	小円墳　横穴式石室		1号墳は前方後円墳　3基	
35	丸山古墳	高松市新田町	古墳			消滅	
36	大谷山古墳	高松市新田町	古墳			消滅	
37	久本古墳	高松市新田町	古墳	円墳?　横穴式石室　石槨	土師質陶棺・承盤付銅椀・須恵器	1975年調査	10・22・23
38	久本山麦峯古墳	高松市新田町	古墳	円墳　組合式石棺			
39	諏訪神社古墳	高松市東山崎町	弥生～古墳	竪穴式石槨３基	碧玉製管玉・土器枕	1990年調査	30

第３表　林・坊城遺跡周辺の遺跡一覧表②

番号	遺跡名	所在地	時代	主な遺構	主な遺物	備　考	参考文献
40	久米山古墳群	高松市東山崎町	古墳	円墳		６基程度	
41	久米池南遺跡	高松市新田町	弥生	竪穴住居・掘立柱建物・土壙墓	弥生中期土器・石器・絵画土器・鉄器	1987～88年調査	15
42	高松市茶臼山古墳	高松市前田西町	古墳	前方後円墳　全長75m 竪穴式石槨2基　箱式石棺　土壙墓	画文帯重列神獣鏡・鍬形石・玉類・鉄剣 鉄刀・土師器壺・鉄鏃・鉄斧	1969年調査	4・10・23
43	茶臼山古墳群	高松市東山崎町	古墳	円墳		５基程度	
44	北山古墳	高松市新田町	古墳	円墳　直径20m　粘土槨　舟形木棺		1972年調査　消滅	
45	滝本神社古墳	高松市前田西町	古墳	横穴式石室（T字形）		小型石棺が出土したという	
46	田楽古墳	高松市前田西町	古墳	円墳　横穴式石室			
47	金石山１号墳	高松市前田西町	古墳	円墳　箱式石棺			
48	金石山２号墳	高松市前田西町	古墳	円墳　横穴式石室			
49	平尾１号墳	高松市前田西町	古墳	円墳　横穴式石室			
50	平尾２号墳	高松市前田西町	古墳	円墳　横穴式石室			
51	宝寿寺跡	高松市前田西町	白鳳	礎石	瓦		
52	平尾３号墳	高松市前田東町	古墳	円墳　横穴式石室			
53	平尾４号墳	高松市前田東町	古墳	円墳　横穴式石室			
54	平尾小古墳群	高松市前田東町	古墳	小円墳　横穴式石室		10基程度	
55	山本古墳	高松市前田東町	古墳	円墳			
56	白山神社古墳	高松市木太町	古墳	円墳		1985年調査	
57	天満・宮西遺跡	高松市松縄町	弥生～近世	竪穴住居・掘立柱建物・溝状遺構・土坑	弥生土器・石庖丁・紡錘車・舟形木器	1989年調査	24・29
58	松縄下所遺跡	高松市松縄町	古代	掘立柱建物・道路状遺構・溝状遺構	須恵器	1991年調査	24
59	大池遺跡	高松市木太町	旧石器		有舌尖頭器	採集	
60	上天神遺跡	高松市上天神町	弥生	掘立柱建物・溝状遺構・土坑・自然河川	弥生土器・石器（石庖丁・石鏃）	1987・88・91・92年調査	27・28・32
61	大田下・須川遺跡	高松市大田下町	弥生～古代	竪穴住居・掘立柱建物・溝状遺構・土坑	弥生土器・絵画土器・須恵器・木器	1989年調査	29・30・33
62	居石遺跡	高松市伏石町	縄文～近世	溝状遺構・自然河川・土坑	縄文土器・弥生土器・小型仿製鏡3面	1991年調査	24
63	井手東Ⅰ遺跡	高松市伏石町	縄文～近世	溝状遺構	縄文土器・弥生土器・木器	1991年調査	24
64	浴・長池Ⅱ遺跡	高松市伏石町	弥生～近世	水田跡・竪穴住居・溝状遺構・土坑	弥生土器	1991年調査	24
65	浴・長池遺跡	高松市林町	縄文～中世	竪穴住居・掘立柱建物・水田跡	縄文土器・弥生土器・木器	1989・1990年調査	29
66	浴・松ノ木遺跡	高松市林町	弥生～近世	溝状遺構・自然河川・水田跡	弥生土器	1990年調査	30
67	林・坊城遺跡	高松市林町	縄文～中世	掘立柱建物・溝状遺構・土坑・自然河川 円形周溝状遺構	縄文土器・弥生土器・石器・木器（櫂・小型鍬状木製品・柄付半截木製品・えぶり）	1988年調査	28・32
68	六条・上所遺跡	高松市六条町	弥生～近世	掘立柱建物・溝状遺構・土坑・竪穴住居	弥生土器・陶質土器・埴式土器・須恵器	1988・90年調査	28・32・35
69	東山崎・水田遺跡	高松市東山崎町	中・近世	掘立柱建物・井戸・溝状遺構・土坑	土師器・須恵器・瓦器・陶磁器・木器	1988年調査	28・32・36
70	前田東・中村遺跡	高松市前田東町	縄文～中世	掘立柱建物・自然河川・方形周溝墓・土坑・溝状遺構・平窯	縄文土器・古式土師器・緑釉陶器・墨書土器・輸入青白磁・木器	1988・89・90・91年調査	28～30 ・32～35
71	権八原遺跡	木田郡三木町	弥生・古墳	溝状遺構・台状墓・円墳	弥生土器・土師器・須恵器	1980・81年調査	10
72	凹原遺跡	高松市多肥下町	弥生～中世	竪穴住居・溝状遺構・土坑・噴砂	弥生土器・古式土師器	1990・91年調査	24・30
73	空港跡地遺跡	高松市林町	弥生～近世	竪穴住居・掘立柱建物・溝状遺構・円形周溝墓・方形周溝墓・水田跡	弥生土器・土師器・須恵器・陶磁器・瓦器・緑釉陶器・石器・呪符木簡・北宋銭	1991年～調査継続中	30・31・34 ・35
74	拝師廃寺	高松市上林町	奈良				
75	田村神社遺跡	高松市一宮町	弥生		弥生土器	採集	2
76	船岡山古墳	香川郡香川町	古墳	前方後円墳　全長51m		1977年調査	8・10・23

第４表　林・坊城遺跡周辺の遺跡一覧表③

番号	遺跡名	所在地	時代	主な遺構	主な遺物	備　考	参考文献
77	舟岡古墳	香川郡香川町	古墳	円墳？ 竪穴式石槨？		半壊　主体部が一部露出	
78	若宮神社古墳	高松市川部町	古墳	横穴式石室			
79	佐賀神社古墳	香川郡香南町	古墳	横穴式石室			
80	横岡山古墳	香川郡香川町	古墳	横穴式石室	須恵器・鉄剣・銅環	半壊	3
81	東赤坂古墳	香川郡香川町	古墳	円墳　径30m　横穴式石室	須恵器		
82	八王子古墳	香川郡香川町	古墳	横穴式石室	土師器・須恵器・鉄鏃・切子玉・馬具	1973年調査　消滅	20
83	万塚古墳群	香川郡香川町	古墳	横穴式石室（万塚古墳）	鉄刀・馬具・金環・ガラス玉	1971年調査　消滅	19
84	雨山南古墳	高松市三谷町	古墳	円墳　径10m　横穴式石室	馬具		
85	加茂羅神社古墳	高松市三谷町	古墳				
86	平石上１号墳	高松市三谷町	古墳	円墳　直径20m		前方後円墳の可能性	
87	平石上２号墳	高松市三谷町	古墳			1986年調査	
88	瘤山１号墳	高松市三谷町	古墳	前方後円墳　全長27m　竪穴式石槨	鏡・家形埴輪が出土したという		1
89	瘤山２号墳	高松市三谷町	古墳	円墳　径10m			
90	矢野面古墳	高松市三谷町	古墳	横穴式石室		半壊	
91	三谷三郎池遺跡	高松市三谷町	縄文		縄文土器	採集	
92	三谷三郎池西岸窯跡	高松市三谷町	古墳	登り窯	須恵器	1983年調査	26
93	三谷石船池古墳群	高松市三谷町	古墳	円墳　横穴式石室	須恵器・鉄鏃・ガラス小玉	1989年～　調査継続中	24
94	三谷石船古墳	高松市三谷町	古墳	前方後円墳　全長90m　割抜式石棺	玉類・埴輪が出土したという		10・23
95	高野丸山古墳	高松市川島本町	古墳	円墳　直径60m　周濠	円筒埴輪	前方後円墳の可能性	1
96	高野南古墳群	高松市川島本町	古墳				
97	光専寺遺跡	高松市池田町	弥生	環濠？	弥生土器・石器	1983年調査	10・23
98	中山田遺跡	高松市西植田町	弥生	竪穴住居・掘立柱建物・テラス状遺構	弥生土器・石器・分銅形土製品	1977年調査	10・23
99	中山田古墳群	高松市西植田町	古墳	円墳　横穴式石室	鉄器・馬具・鍔環・須恵器・玉類	1977年調査	10
100	三谷通谷遺跡	高松市三谷町	弥生	円形周溝・壺棺墓	壺棺	1974年調査	6
101	香川大学農学部遺跡	木田郡三木町	弥生		弥生土器		14

※表の番号は第２図の番号と対応する

るところである。

中世・近世

中世・近世の遺跡としては，城跡や城館跡などが知られているが，集落遺跡としては当センターが発掘調査した東山崎・水田遺跡がある。掘立柱建物跡群や井戸などを検出したが，なかでも掘立柱建物跡を囲繞するかたちで検出した溝状遺構は，近世の屋敷跡の可能性がある。前田東・中村遺跡では掘立柱建物跡を検出している。

高松市の中心街には，天正16年（1588）に生駒親正によって築城された高松城跡が所在している。この高松城の城下町として高松市は発展してきたのである。

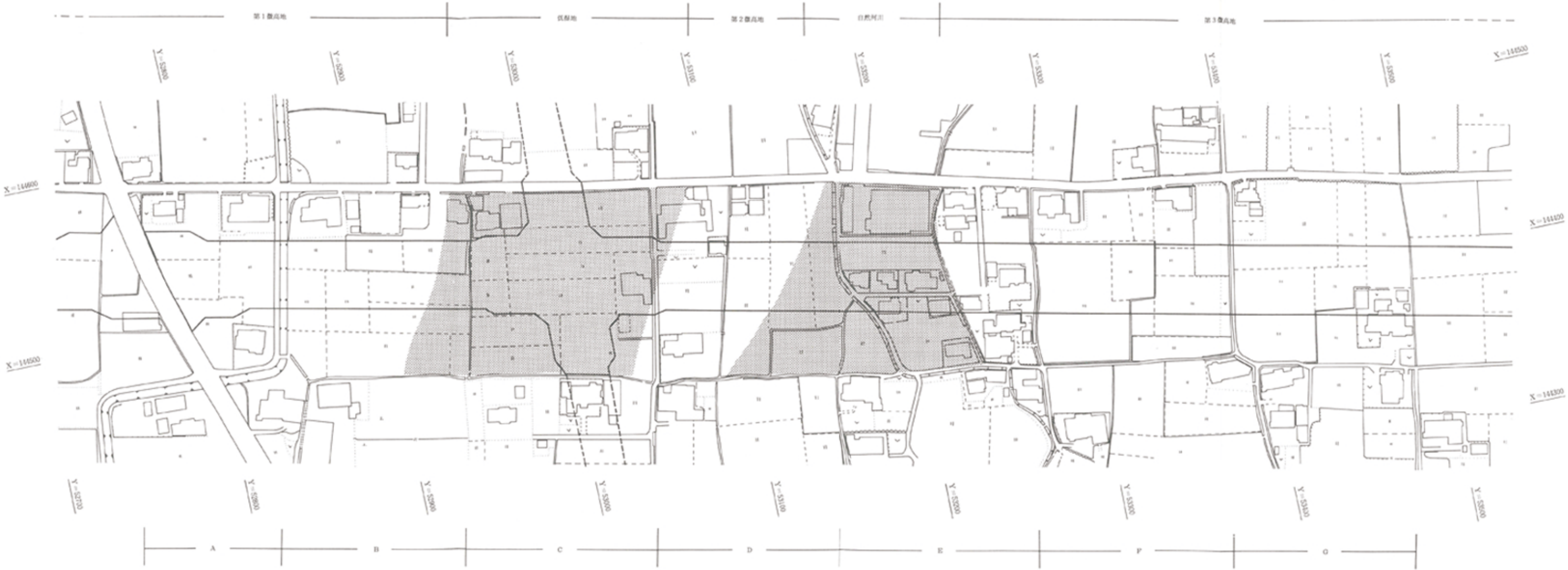
註

1) 藤井雄三「雨山南遺跡」『香川考古　創刊号』香川考古刊行会　1983
2) 参考文献　30・34
3) 参考文献　5
4) 参考文献　10・26
5) 『高松市円養寺遺跡調査概報』円養寺遺跡発掘調査団　1971
6) 小林行雄・杉原荘介編『弥生式土器集成』（本編１）1968
7) 弘福寺領讃岐国山田郡田図比定地発掘調査は1988年から継続的に行なわれ，すでにその成果が概報として発表されている。
『弘福寺領讃岐国山田郡田図比定地域発掘調査概報Ⅰ』高松市教育委員会　1988
『弘福寺領讃岐国山田郡田図比定地域発掘調査概報Ⅱ』高松市教育委員会　1989
『弘福寺領讃岐国山田郡田図比定地域発掘調査概報Ⅲ』高松市教育委員会　1990

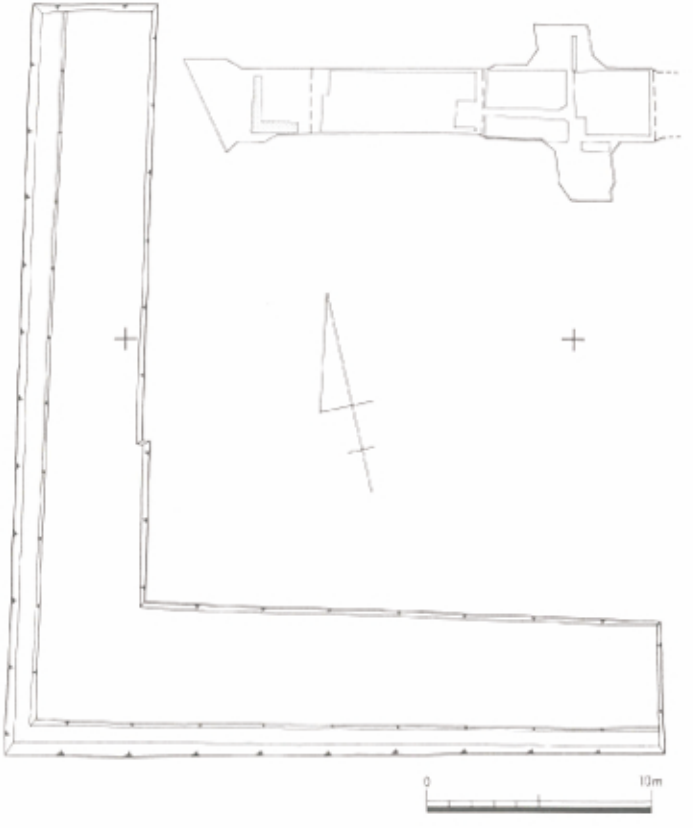
参考文献

(1) 『木田郡史』1940
(2) 『一宮村史』1965
(3) 『香川郡史』1970
(4) 『高松市茶臼山古墳緊急発掘調査概報』香川県教育委員会　1970
(5) 『石清尾山塊古墳群調査報告』高松市教育委員会　1973
(6) 『高松市三谷通谷遺跡調査概報』高松市教育委員会　1974
(7) 『高松市・山下古墳調査報告』香川県教育委員会　1980
(8) 『香川町・船岡山古墳調査報告』香川県教育委員会　1980
(9) 『鶴尾神社４号墳調査報告書』高松市教育委員会　1983
(10) 『新篇・香川叢書考古篇』香川県教育委員会　1983

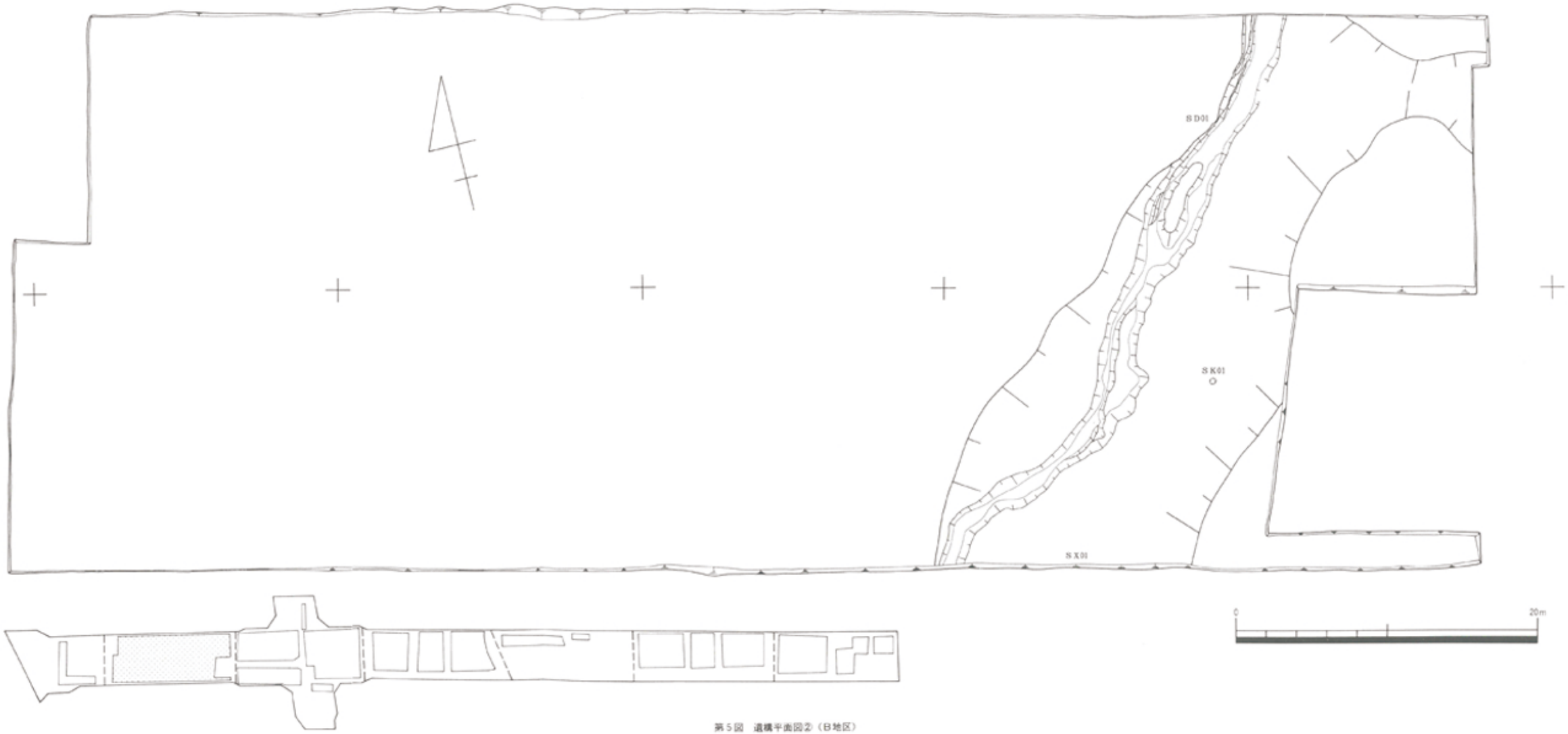
⑾ 『讃岐青銅器図録』瀬戸内海歴史民俗資料館　1983
⑿ 『南山浦古墳群調査報告書』高松市教育委員会　1985
⒀ 『高松城東ノ丸跡発掘調査報告書』香川県教育委員会　1987
⒁ 『香川県史』第１巻　原始・古代　1988
⒂ 『久米池南遺跡発掘調査報告書』高松市教育委員会　1989
⒃ 梅原末治『讃岐高松石清尾山石塚の研究』
京都帝国大学文学部考古学研究報告第12冊　1933
⒄ 竺林　徳『高松市高松町すべり山出土弥生式遺物報告書』1955
⒅ 森井　正「高松市女木島丸山古墳」
『香川県文化財調査報告第８』香川県教育委員会　1966
⒆ 中原耕男「万塚古墳発掘調査報告」
『文化財協会報　特別号』第10号　香川県文化財保護協会　1971
⒇ 井上勝之「香川町浅野八王子古墳調査報告」
『文化財協会報』第58号　香川県文化財保護協会　1973
(21) 小竹一郎他『古高松郷土誌』古高松郷土誌編集委員会　1977
(22) 松本敏三「久本古墳・横穴式石室の一例」『教育香川』1977
(23) 廣瀬常雄『日本の古代遺跡８　香川』保育社　1983
(24) 山元敏弘・山本英之「香川県埋蔵文化財研究会発表資料」1992
(25) 『香川県埋蔵文化財調査年報　昭和55年度』香川県教育委員会　1981
(26) 『香川県埋蔵文化財調査年報　昭和58年度』香川県教育委員会　1984
(27) 『香川県埋蔵文化財調査年報　昭和59～62年度』香川県教育委員会　1988
(28) 『香川県埋蔵文化財調査年報　昭和63年度』香川県教育委員会　1989
(29) 『香川県埋蔵文化財調査年報　平成元年度』香川県教育委員会　1990
(30) 『香川県埋蔵文化財調査年報　平成２年度』香川県教育委員会　1991
(31) 『空港跡地遺跡発掘調査概報』平成３年度
香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター　1992
(32) 『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター年報　昭和63年度』1989
(33) 『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター年報　平成元年度』1990
(34) 『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター年報　平成２年度』1991
(35) 『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター年報　平成３年度』1992
(36) 『高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第１冊　東山崎・水田遺跡』
香川県教育委員会　1992


第1微高地
低湿地
第2微高地
自然河川
第3微高地
X=144600
X=144500
X=144400
X=144300
Y=52700
Y=52800
Y=52900
Y=53000
Y=53100
Y=53200
Y=53300
Y=53400
Y=53500
A
B
C
D
E
F
G
0
100m

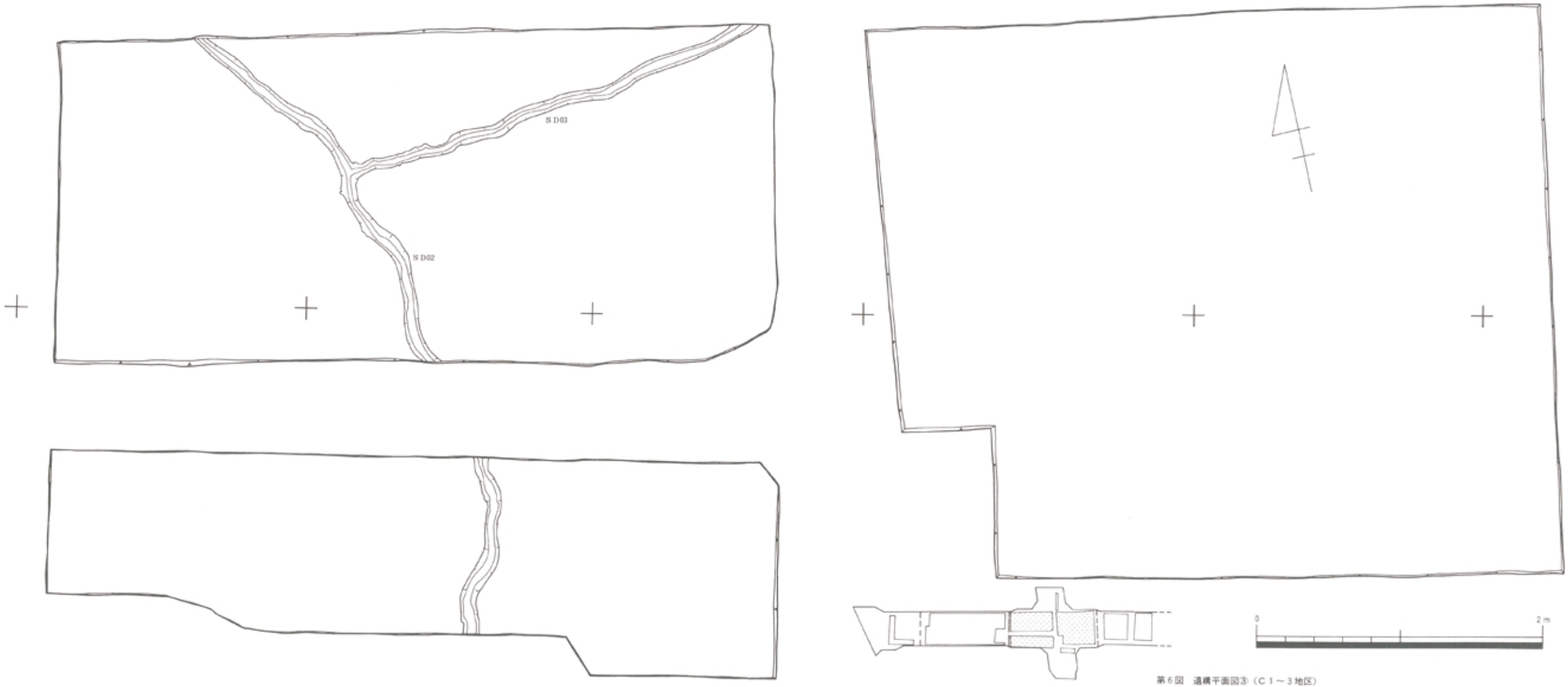
第3図　遺跡周辺地形図



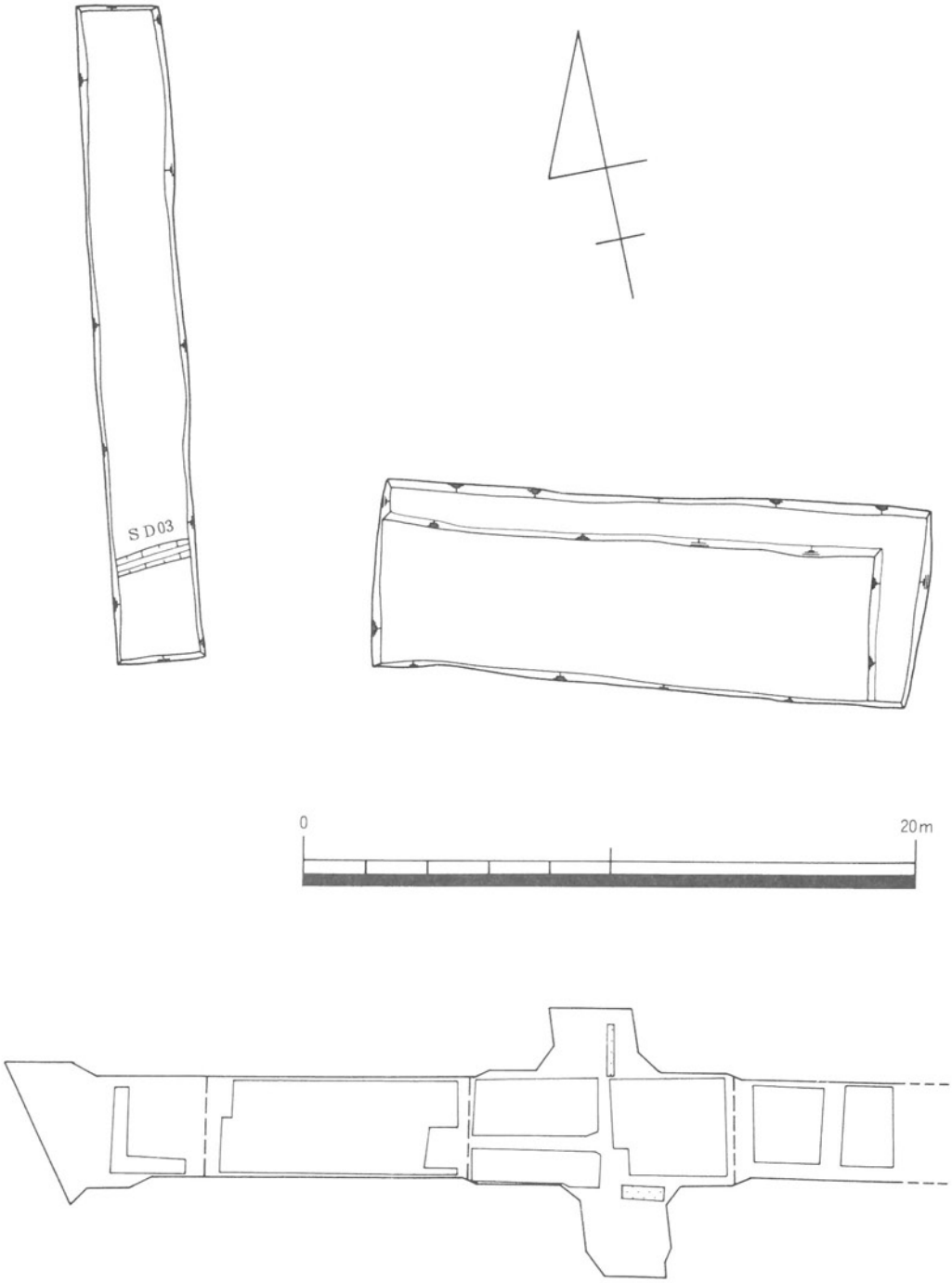
第4図　遺構平面図①（A地区）



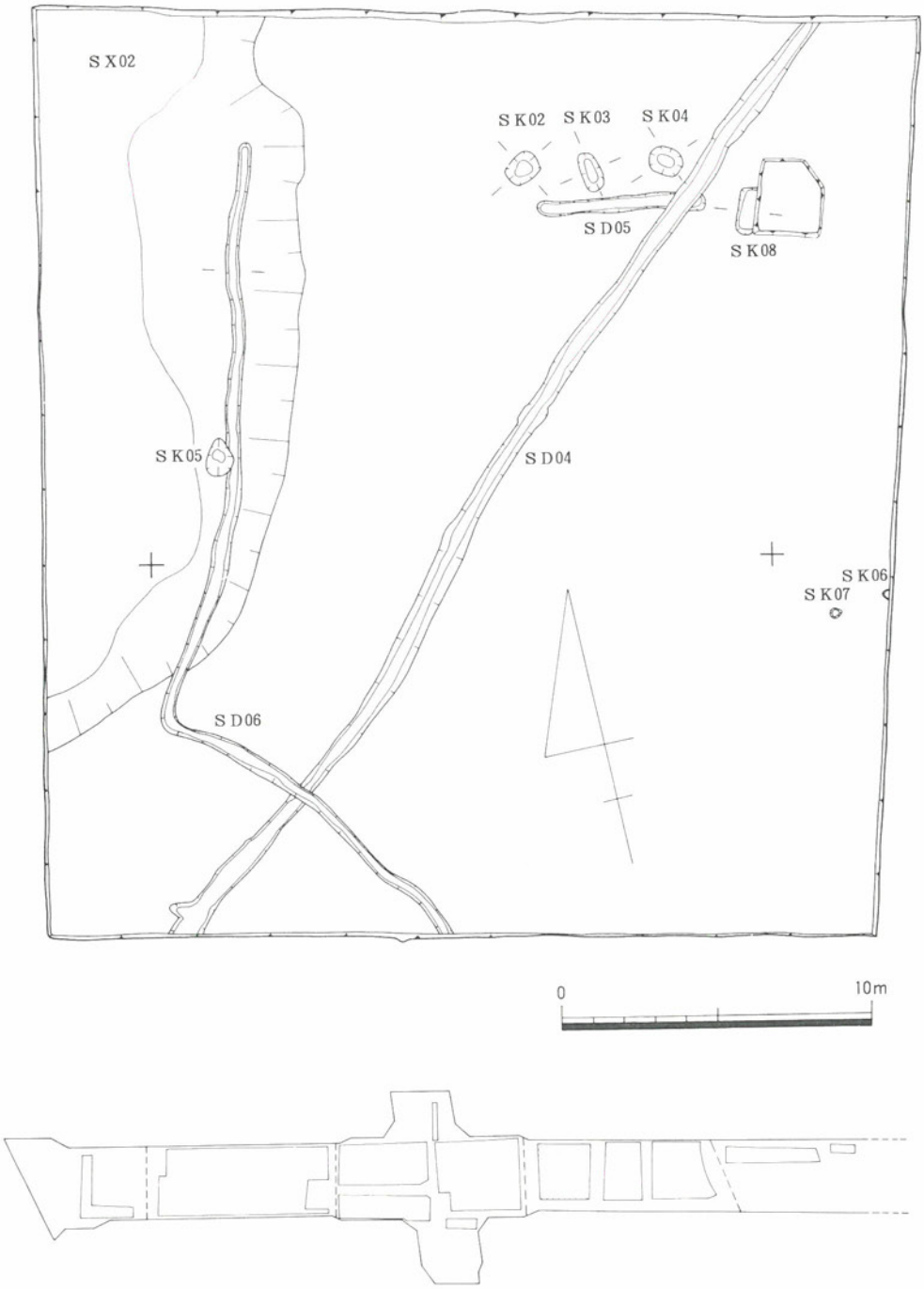
第5図　遺構平面図②（B地区）



第6図　遺構平面図③（C1～3地区）

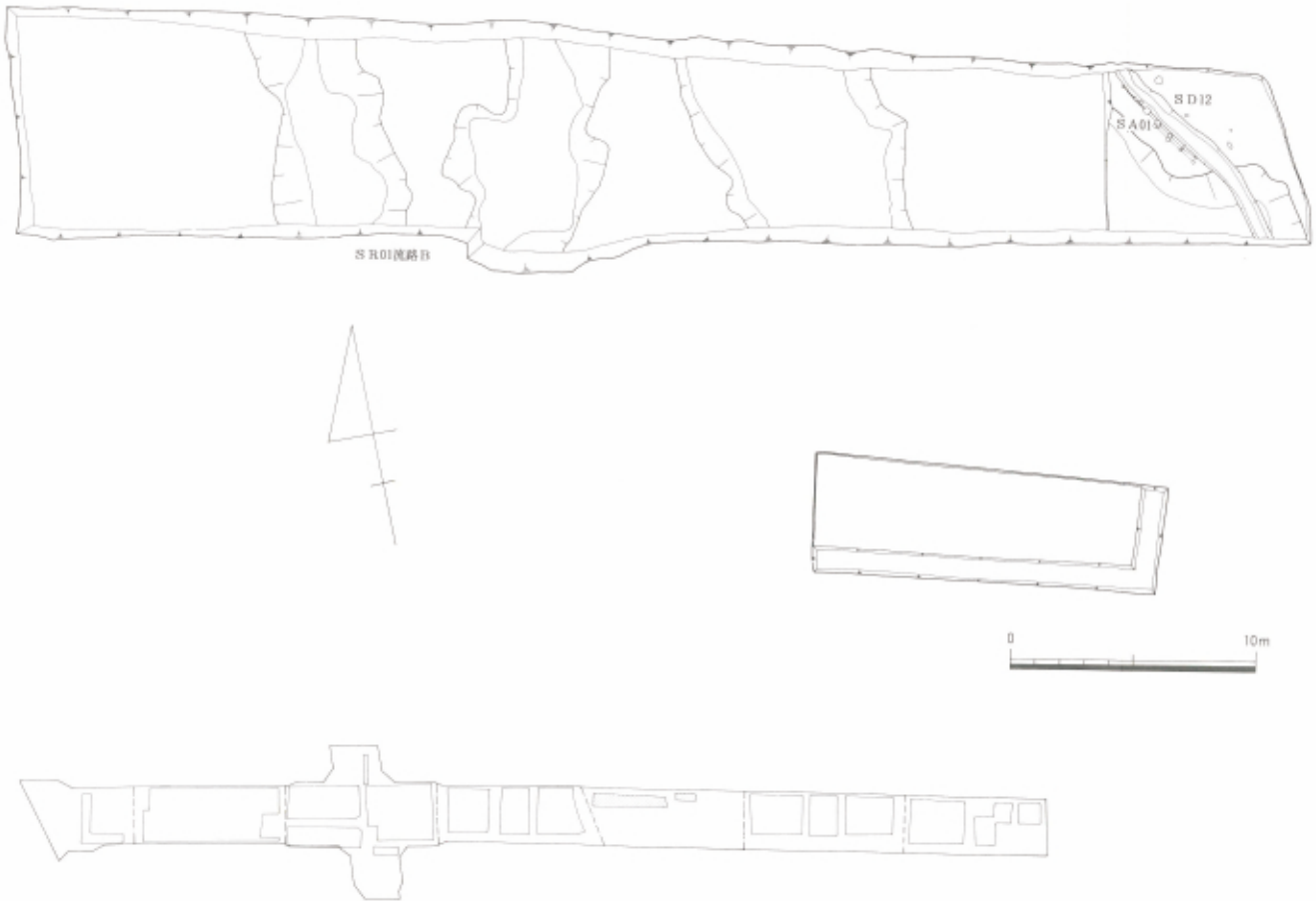


第７図　遺構平面図④（Ｃ４・５地区）

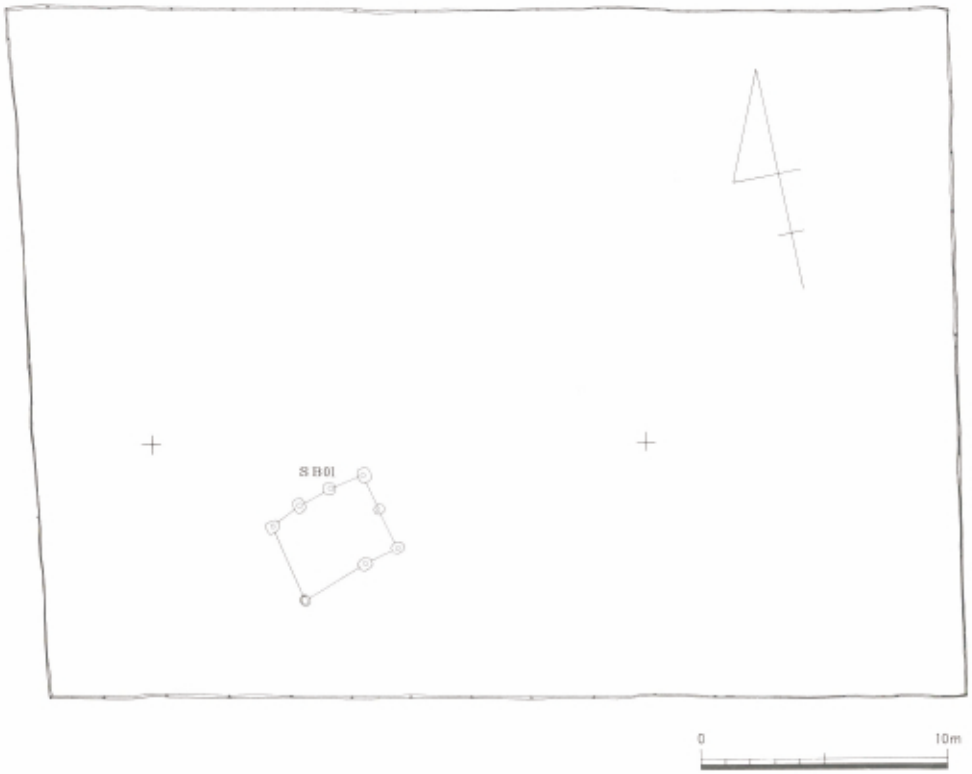


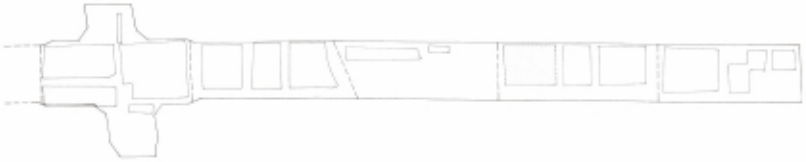
第８図　遺構平面図⑤（Ｄ１地区）

第9図　遺構平面図⑥（D２・３地区）

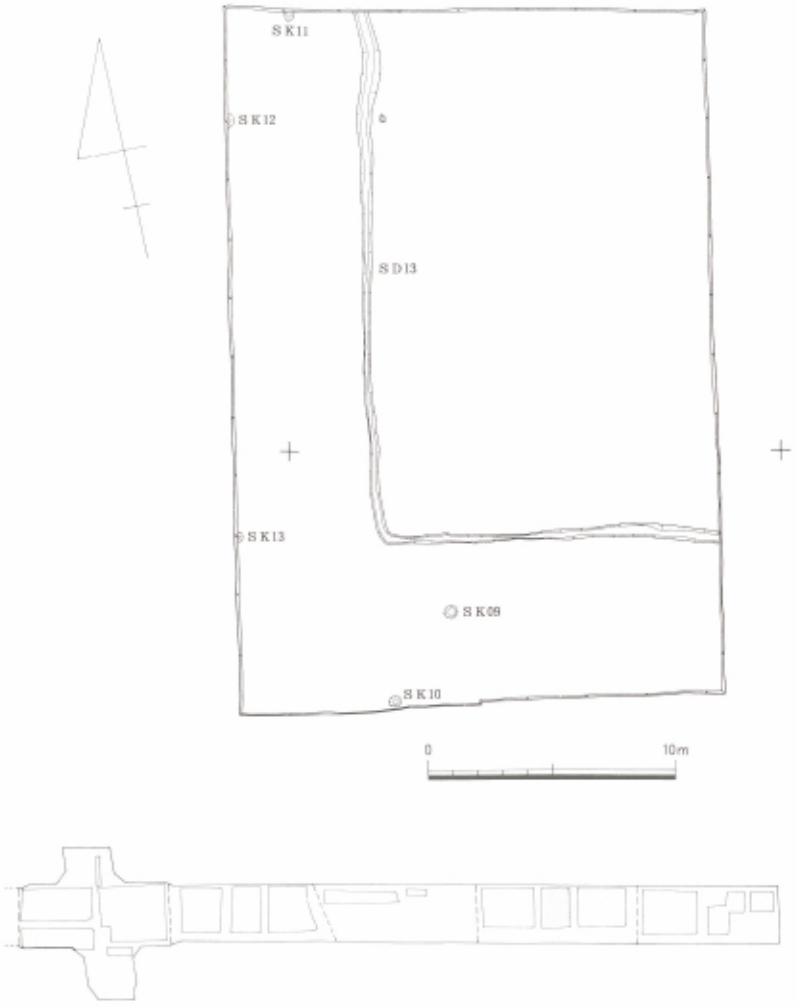


第10図　遺構平面図⑦（E１・２地区）

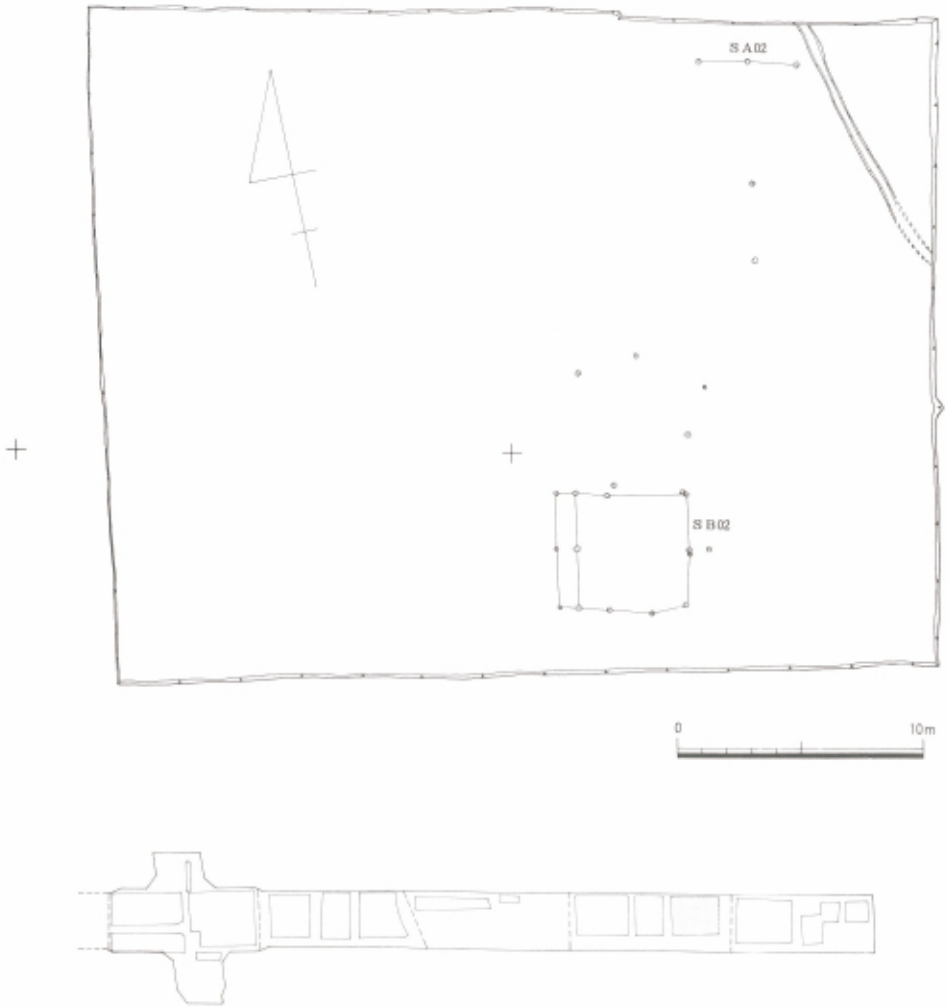




第11図　遺構平面図⑧（Ｆ１地区）

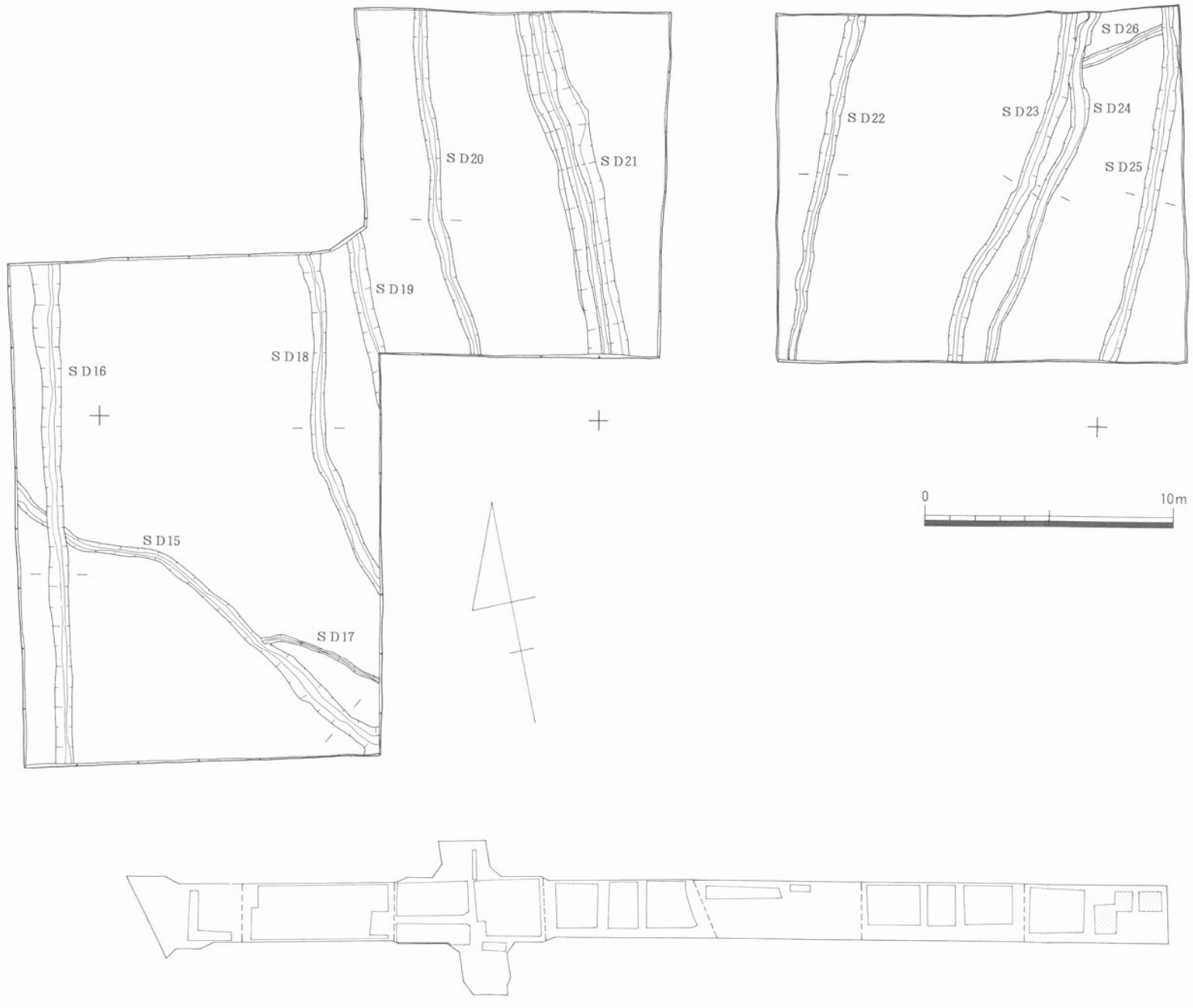


第12図　遺構平面図⑧（F 2 地区）



第13図　遺構平面図⑩（F３地区）

第14図　遺構平面図⑪（Ｇ１地区）



第15図　遺構平面図⑫（Ｇ２・３地区）